

## ジョイサポコラム No.4

## コロナ渦での両立！？

横須賀市保健所 杉本 茜

平成30年に保健所に来て今年で3年目になりました。

約10年間、臨床の現場にいたため慣れないことだらけのスタートでした。

健診や相談事業等もありましたが、市民向けや福祉施設向けの講演などもあり、大勢の前で話すことが苦手の私にとっては、これが一番ハードルが高かったなと思います。最初の講演の時には頭の中が真っ白になっていましたが「分かりやすかったですよ～」と言っただき、少しずつ自信につながっていったと思います。

2年目も終盤に差し掛かったころ、新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、令和2年1月に指定感染症となりました。これをきっかけに仕事も生活も大きく変わりました。

医療職であったため保育園は今まで通り預かっていただくことは可能でしたが、2～3月に小学校が休校となり、日中の学童の開設が間に合わず、小学生の子を連れて出勤することもありました。今現在は学校は感染対策を行いながら通常通り再開されているので一安心ですが、学齢期のお子さんと陽性者がでると消毒作業等のため学校は休校になるようで、いつ休校になってしまうかとヒヤヒヤしています。

そして、保健所はというと、まさに災害時そのものとなりました。

災害時には、すべての業務（保健所も含めそれ以外の業務も）がストップしてしまうため、全力で災害対応に当たることとなりますが、今回は、通常業務を継続しながらの災害対応とな

ります（もちろん縮小はしていますが…）。例えば、医師に関しては市民健診、乳幼児健診、BCGの集団接種その他の業務を継続しながらの対応となります。医師以外の職員も同様です。そして、感染症は土日祝日も待ってはくれません。当初は1週間、子供の寝顔しか見られないこともあり、「今日はママがお迎えに来る？今日もお迎えじゃないの？絶対来て!!」「ママ行かないで～」と大泣きされてしまう日もありました。治療の最前線で勤務をしている方々はもっと大変な思いをしているので甘えてもられません。子供に泣かれてしまうのはやはり辛いものだな…と感じます。

今日の子供のお迎えは誰？今日は残業できる？できない？土日祝日はどちらが子供をみる？毎日のスケジュール調整にてんてこ舞いですが、理解し協力してくれる人たちがいるからこそ続けてられるんだろうな～と本当に感謝しています。

最近では子供たちも「ママ、仕事、無理しないでね！行ってらっしゃ～い！」「早くコロナなくなれ～」「ママ、ゴロゴロしてていいよ！」と声をかけてくれるようになりました。こんな風に人を気遣うことが出来るようになったんだなと子供たちの成長を感じています。

感染症の流行で多くの方が大変な思いをしています。その中で、小さなことで何でもいいので一つでも「あっ！こんないいことがあったな！」と発見できるといいなと思っています。